



いづみ

No.87

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

自作自選 57



《痕 跡》

桂 充子

(2 ページに「作者の言葉」)

グループ展に出品したものです。昔の作品ですが、今、改めて見ると祈りのような佇まいで切り取られた輪郭が印象に残ります。この時（約20年前）と今では世相も変わり、日本でも一人の人間の尊厳、その輪郭をはっきりと認識する時代になったなと思います。具象彫刻を中心に制作していますが、奥底にある生きる、生きていたその存在の強さを見つけ、表現したいのだと思います。（1968年、東京生まれ。北海道美術協会会員）

タイトル	: 痕跡
制作年	: 2004年
素材	: FRP 着彩
サイズ	: H980×W400×D250mm
設置場所	: 作者蔵

「制作の現場」としての美術館

業務係 清水 むつみ

今年 15 回目を迎えた雪像彫刻展が 3 日間の短い展示期間ながら、延べ約 800 人の来場者を迎えて盛況のうちに終了しました。毎年、間近で制作の様子を拝見し、感銘を受けています。

アートシーンにおいて、インスタレーションなど展示空間で制作をする作品は多々あります。雪像彫刻展が特徴的なのは、普段は彫刻家や木工家・美術家として個人の空間で行っている制作作業を「短期間」・「同じ空間」・「同じ素材」で合宿のように、お互いに道具などの技術面で協力しあいながらも切磋琢磨して、作家それぞれの作品を創り上げるという点にあるように思います。

作家にとっても美術館にとっても特別なイベントとなっていることでしょう。日が落ちてからは作家自ら工夫した照明の効果も大きく、この時間帯をめざして来場する方も多くいらっしゃいます。今年からは雪像彫刻展のメンバーのご協力の下、子どもたちが雪あそびを楽しめるプレイパークという場が設けられて、さらに活動の拡がりをみせています。

本郷新も雪像彫刻には多大な関心を寄せていたという記述があり、自らの制作の場が 15 年の間、毎冬、雪像制作の現場となっているのを見たら、どのような感想を持つだろうかと思っております。

今後も彫刻美術館のスタッフとして、作家の皆さんの活動の場を支えるお手伝いができればと思っております。



彫刻家と挿絵画家の「二刀流」、 梁川剛一さんのこと

友の会副会長 大内 和

もう40年も前のことになる。函館出身のある芸術家にインタビューを申し込んだ。すると、開口一番、「挿絵の話ですか、それとも本業の方ですか」と聞かれた。この人、梁川剛一さんと言う。知る人も少なくなったようだ。

1902年(明治35年)3月30日生まれで、86年(昭和61年)4月26日、脳梗塞に急性肺炎を併発して、東京・世田谷の自宅で84歳の生涯を終えた。今年が生誕122年、没後38年。今月が祥月命日だ。北海道人らしい朴訥な話しぶりが印象的で、今も忘れられない人だ。

友の会の北海道デジタル彫刻美術館には《高田屋嘉兵衛》《円盤投》《明治天皇上陸記念碑 鳳凰》の3作品が紹介されている。いずれも故郷、函館にある。その昔、札幌・中央区南2西4のビルの壁面に「開拓の凱歌」というレリーフがあったが、ビルの解体でなくなってしまった。残念である。「札幌散策」(札幌市芸術文化財団発行)の旧版で写真を見ることができる。

インタビューは1980年12月7日の北海道新聞朝刊「さんで一訪問」に載った。その中でこんなエピソードを語った。「ある時、何かの祝賀会の席上、若い彫刻家が、先生と同姓同名の挿絵画家がいますね。私、あの人の絵が大好きなんですと言うので、あれは僕ですと言ったんだ。するとその場は梁川剛一サイン会になってしまっただけ」

そう、梁川さんは本業とは別に「挿絵画家」の肩書も持っていた。むしろ、この方が知られていたかも。知る人ぞ知る昭和10年代から雑誌や児童文学全集の挿絵画家として一世を風靡した。彫刻家と挿絵画家の「二刀流」のゆえんである。

戦中から戦後にかけて江戸川乱歩「怪人二十面相」、山中峯太郎「敵中横断三百里」、西城八十「名作物語」など、挿絵で当時の少年少女を魅了した。偉人伝ではエジソン、野口英世、ナポレオン、キリスト、ベートーベン、リンカーンなど十指に余る。「世界の偉人で私の手にかかれない人はいないくらい」と胸をそらした。筆者も学校の図書館で読んだ児童文学全集の挿絵がかすかに目に浮かぶ。

「なぜ挿絵を？」の問いに「生活のためですよ。美術学校を出た後、軍隊へ。除隊したが、彫刻では何カ月もかかる。挿絵なら、すぐ稿料が入るからね」と人懐こい表情で答えた。

「ぼくの絵は絵画というより彫刻という感じで、立体感が強烈に表現されていると言われます。彫刻をやったせいでしょう。彫刻の勉強が役に立ちました」と笑った。屈託のない笑顔が懐かしい。

1991年3月、芸術の森美術館で「梁川剛一さしえ展」が開かれた。再企画を期待したい。

彫刻美術館「館長の日曜講話」に手応え

本郷新記念札幌彫刻美術館 館長 吉崎 元章



令和5年度から始めた「館長の日曜講話」。きっかけは、当館にもっと愛着をもってもらうにはどうしたらいいかと考えたことでした。さらに元をたどれば、世田谷美術館の酒井忠康館長からうかがった話が発想の原点です。大手広告代理店の第一線で長年活躍してきた人が、これからの時代は不特定多数の人を広く相手にするのではなく、ファンを育て、大切にしていかなければ生き残っていけないと教えてもらったというのです。

確かに、当館に関心をもってきている方でも、おそらく展覧会の度くらいしか来館していないでしょう。何度も足を運んでもらうにはどうすればいいのか。その参考としたのがお寺の法話です。定期的におもしろい話をしていけば、自主的に訪れてくれるにちがいない。幸い、私も北海道大学の非常勤講師として「学芸員から見た美術の世界」という講義を20年以上続けており、話のネタはある程度はもっていました。

そこでまずは6月から隔週で「彫刻編」を7回試みました。「野外彫刻の魅力と課題」に始まり、本郷新、本田明二、砂澤ビッキ、グスタフ・ヴィーゲラン、ダニ・カラヴァンといった札幌芸術の森野外美術館収蔵作家を取り上げ、最後に野外美術館の解説ツアーにつなげていくというプログラムです。10人くらい集まればと思っていましたが、毎回20～30人の方々にお越しいただき、常連の方も多くいらっしゃいました。

最も心がけたのは、一般的な教養講座にはしないということです。できるだけ専門用語を使わずに、エピソードを交えながら、プレゼンソフトを駆使してわかりやすく伝えていくということをひとつの挑戦としました。90分間を飽きさせることなく、知的エンターテインメントとして、深い内容をしっかりと整理して心に残るように伝えるということです。大学の講義とはかなり内容を変えています。

「彫刻編」が好評でしたので、10月からは「札幌の美術編」をスタートさせました。ラインナップは、「昭和10～20年代：中島公園の謎のパトロン中根光一邸」「昭和30年代：辛口美術評論家なかがわ・つかさ旋風」「モエレ沼公園と2度のイサム・ノグチ展」「なぜ美術館でマンガやアニメの展覧会がひらかれるのか」「開幕直前!! 札幌国際芸術祭の役割」「北海道の冬のアートイベントあれこれ」という6本。いずれも私がこれまで手掛けてきた展覧会企画を通して調査研究したことや、体験してきたことがもとになっています。

令和6年度もこの内容を踏襲しつつ、引き続き「館長講話」を続ける予定ですが、ひとつだけ変更点があります。開催日が日曜から土曜になります。それ以外はこれまでと同じく、10:30～12:00に本館研修室で行います。詳しくは、改めてチラシやホームページでお知らせします。ぜひご興味のある回にお気軽にお越しください。

急がれる野外彫刻の劣化状況調査

友の会会長 高橋 大作

現在札幌市が管理する野外彫刻は約 400 体あります。その中には設置年数が相当経過したものもあり、「安全」の観点で調査し、4 段階のレベルで分けられています。

レベル A は「良好」、レベル B は「経過観察」、レベル C は「要調査」、レベル D は「要補修」に分けられています。そしてレベル D はさらに D1 から D4 の 4 段階に細分化されています。

D1 は「ごく軽微な劣化あり」(40 体)、D2 は「軽微な劣化が認められる状態」(66 体)、D3 は「著しい劣化が認められる状態」(31 体)、D4 は「著しい劣化が認められるもののうち、第三者への被害が懸念されるため早期対応を要する状態」(9 体)。合計 146 体について補修が必要と判断されているものです。

札幌市は急がねばならない案件 (D4, D3) から順次補修を開始していますが、D1 のレベルのものでも危険度が高く、緊急性があるものもあり、私ども友の会として D1、D2 レベルの 106 体について改めて状況調査を試みようということになりました。

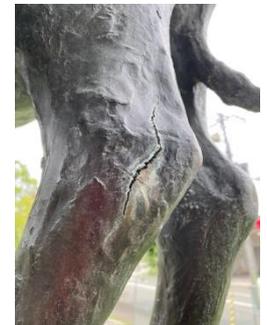
彫刻が人に対して負傷させることなどがあってはならないものですが、それとともに芸術性豊かな作品が劣化して崩れていくというのも耐えがたいことです。この両方の問題を発生させないようにするには適切な時に、適切な修復をするということによって確保されるのです。

そのための第一歩が「調査」です。調査をし、その結果をレベル分けし、危険度が高いと判断されるものを早期対応が必要なものと判断して格上げするのです。友の会の皆様に調査に携わる方はまさに人の安全を確保し、同時に芸術性豊かな作品の延命に貢献していると言っても過言ではありません。

古代ギリシャの医師ヒポクラテスがラテン語で、“Ars longa, vita brevis” と言ったそうです。「人生は短い、医術を習得するのは難しく

時間を要する。だから勉強し続けなければならない」。これが本来、彼が言ったことですが、転じて「芸術は長く、人生は短し」となっていたそうです。

芸術作品は作者の死後も後世に残り、それを清掃し、修復をして芸術作品である野外彫刻を延命し長寿命化させ、よって次の時代へバトンタッチしていく。友の会の皆様はこのような長く大きく動くメビウスの輪に乗って大循環の中におられるのです。



速やかな補修が待たれる真駒内第一公園の<牛と少年>(佐藤忠良)=上=と亀裂が入った部分=下=

彫刻美術館友の会 2024 年新年会

彫刻家・鈴木吾郎氏が講演

木彫オークションも盛況



2024年の新年会が2月17日、札幌・中央区の「ネストホテル札幌駅前」で開かれ、40人ほどが参加した。高橋大作会長の挨拶の後、彫刻家の鈴木吾郎さんの講演、さらにミニコンサートや友の会では初めてのオークションが催され、盛り上がった。

桜田さんがフルート演奏で魅了

新年会は会長挨拶に続いて来賓の本郷新記念札幌彫刻美術館の梅村尚幸学芸員が乾杯の音頭を取って始まった。

次いで鈴木さんが少年時代のエピソードを交えながら、自身の60年にわたる彫刻家としての道を振り返った。

参加者の紹介、さらに新人会員がそれぞれ自己紹介をした。

ミニコンサートでは会員の桜田信明さんのフルートと音楽仲間の谷口理恵さんのオカリナ演奏が披露された。「春のうたメロデー」「乾杯のうた」など6曲を演奏して聴かせた。

渡辺一夫コレクション 12点を落札

引き続き友の会では初めてのオークションが行われ、釧路市の木彫家・渡辺一夫さんの木彫作品12点が競りにかけられた。

渡辺さんは1948年、釧路生まれ。早くから木彫作家として活躍している。



今回は昨年亡くなった渡辺作品のコレクターの遺族から、友の会に寄贈されたもので、可憐な少女像や女性像など。全作品が総額7万4千円で競り落とされた。売り上げ金は昨年刊行した「ぶらり札幌彫刻めぐり」の増刷費用に充てる予定。最後に橋本信夫名誉会長が会を締めくくった。

講演「彫刻人生60年を語る」を聞いて

会員 笹山 恵利

月形町で少年時代を過ごされた鈴木先生は、一人でいることが多い子どもであった。当時、町に石狩川の支流があり、時折、泳ぎの達者な村の青年たちが川を渡り、向こう岸の話で盛り上がっていた。何としても自分も対岸に渡ってみたいとの思いが募った。

悲願達成の一大決心をし、水泳の猛特訓を始める。次の年の夏休み、満を持して本番に挑戦。目標地点より上流にスタート地点を定め、流れに逆らわずひたすら向こう岸を目指した。岸边に近付いた時、突然足がつって急流に流されたが、何とか対岸にたどり着いた。

帰途は遥か遠くの橋を渡らねばならなかった。途中の町を下帯一本で駆け抜けていく少年。誰もその姿を気に留めるものはいなかった。

エピソードの最後は一瞬、芥川龍之介の小説「トロッコ」の主人公が冒険の果てに家路を急ぐ姿を彷彿とさせる。心優しい少年が、命の危険を賭けてまで突き動かされて自らに与えた試練は、やがて鈴木芸術へと昇華する源流となったのではないか。

北陸銀行の《鶴の舞》

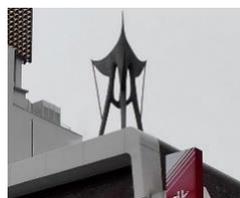
豊平支店に安住の地

北陸銀行札幌支店の店舗改築に伴い同店屋上にあった山内壮夫の彫刻《鶴の舞》が昨年秋、同行豊平支店前に移設された＝写真＝。

《鶴の舞》は1966年大通西2の旧店舗竣工記念に設置され、屋上から青空をバックに銀行のシンボルになっていた。



2021年、新店舗新築に伴うビル解体で姿を消していたが、やっと安住の地が見つかり舞い降りた格好で来店客などに優雅な姿を見せている。



旧北陸銀行屋上にあった《鶴の舞》

「ぶらり札幌」増刷へ

好評で在庫なし

昨年春、友の会初めての出版活動として刊行した「ぶらり札幌彫刻めぐり」が好評のうちに在庫がなくなり、新年度に合わ

せて増刷が決まった。近く第2版として300部を増刷する。

「ぶらり札幌」は2018年から20年にかけて北海道医療新聞社の雑誌「ケア」に24回にわたって連載した「さっぽろ野外彫刻美術マップ」を冊子化した。ハンディなB6版サイズ、90ペ



ージ。札幌市内を14地域・ブロックに分け、主な彫刻作品を写真と解説で紹介した。

500部を印刷、会員のほか市内の中、高校、図書館、関係機関などに贈った。「街歩きのお供に重宝」「今まで知らなかった街角の彫刻に関心が高まった」などの声が寄せられた。

思いがけず在庫が少なくなったため、増刷を決め、新たに背表紙を付け、初版では見過ごされた間違いの訂正、細かな字句などの修正を行い、近く2版として発行する。

中村直人の彫刻

「鷲首」友の会へ寄贈 中村直人研究の相場啓介さん

夕張市にある《採炭救国坑夫の像》の作者、中村直人の作品を保存する中村直人彫刻絵画調査



研究所の相場啓介所長からこのほど友の会へ中村作のブロンズ彫刻《鷲首》が寄贈された。

作品は1941年制作で高さ12センチ、直径11センチ。相場さんは屋外彫刻調査保存研究会を通じて橋本信夫名誉会長との交流も長く続いていることから今回の寄贈につながった。

友の会顧問

原子修さん逝去 91歳 彫刻美術館初代館長など歴任 道内詩壇をリード

1981年、札幌彫刻美術館（現本郷新記念札幌彫刻美術館）開館と同時に友の会発足を指導、2005年から顧問を務めていた原子修さんが1月30日、肺炎のため、小樽市で亡くなった。91歳。



原子さんは函館市出身で道学芸大（現教育大函館校）卒。札幌大名誉教授、北海道文学館参与などを歴任した。宮沢賢治の研究でも知られるなど、北海道の詩壇をけん引したほか幅広く文化活動にも尽力した。

1981年の彫刻美術館開館と同時に初代館長に就き、館の発展に尽くした。当初から友の会の結成を呼び掛けたことから、美術館との同時発足につながった。また、2005年から会の顧問に就任、友の会活動に尽力した。現在の友の会の会則は原子さんが草案を作ったという。

一昨年3月には彫刻美術館が開館40周年記念として開いた美術館の展望を探る討論会に出席、彫刻作品の適切な管理と次代への継承を強く訴えた。

事務局日誌▼2023年12月12日
 =彫刻美術館運営協議会(彫刻美術館)高橋大作会長出席(8-11月事業報告など)▼14日=定例役員会(かでの2・7)「ぶらり札幌彫刻めぐり」増刷、会報86号報告、24年度事業計画など協議▼27日=会報「いずみ」86号発送(エルプラザ)▼2024年1月11日=定例役員会(エルプラザ)岩見沢の<愛の母子像>修復の件で岩見沢ロータリークラブからの相談について報告、メディアマジック・樋原氏来席(デジタル彫刻美術館データ打合せ)ほか▼2月8日=定例役員会(エルプラザ)新年会企画協議、会報87号企画ほか▼17日=2024年新年会(ネストホテル札幌駅前)

編集後記▼「鬼の霍乱」という言葉もありますが、思いがけず新年会の当日、風邪に見舞われ、欠席させてもらった。新年会に欠席したのは初めて▼と言う訳で今号の新年会ニュースの編集など、多くの人にご迷惑をおかけしてしまいました。改めておわびします。やはり何事も健康第一を肝に銘じました。
 (大内)

札幌彫刻美術館友の会
 会報「いずみ」 No.87
 2024年4月1日発行
 発行人 高橋 大作
 編集者 大内 和
 札幌市清田区清田5-4-6-30
 011-884-6025
 印刷 山藤三陽印刷

会報「いずみ」87号 目次	
自作自選57 《痕跡》	桂 充子 表紙
宮の森の四季57 「制作の現場としての美術館」	清水むつみ 2
風見鶏「梁川剛一さんのこと」	大内 和 3
寄稿「館長の日曜講話に手応え」	吉崎 元章 4
寄稿「野外彫刻劣化調査」	高橋 大作 5
友の会ニュース 6-7
2024年新年会/鈴木吾郎講演を聞いて/<鶴の舞>安住の地へ/ 「ぶらり札幌」増刷へ/中村直人彫刻寄贈/原子修顧問逝去	
事務局日誌/編集後記/目次/美術館行事予定ほか 8

本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

本 館

■コレクション展 かく語りき 本郷新「彫刻は詩の塊だ！」
 開催中～5月26日(日)

本郷新は数多くの芸術論、作品論、自伝などを遺しており、美術館ではこれらをボランティアの手を借りながら長年にわたって整理し、データ化作業を行ってきた。本展では、集積されたそれらアーカイブ資料を公開しつつ、言論表現の側面からも本郷新の彫刻に対する思念を浮き彫りにする。

■共振一本郷新+北海道の現代アーティスト
 6月15日(土)～9月16日(月) 祝

本郷新の作品や精神を、現代アーティストたちによる鋭敏な視点や解釈によって改めて見つめ直し、それぞれの表現とたがいに響き合わせることで、今日的な価値を持った新たな世界の創出を試みる。

記念館

■コレクション展「石と木」 開催中～5月26日(日)

札幌・大通公園の《泉》の像や戦没学生記念碑《わだつみのこえ》など塑像作品に代表作が多い本郷新だが、石彫や木彫など不可逆性の要素が色濃いカーヴィング作品も手掛けている。本展では、ひときわ進取性に富んだ表現を見せる館所蔵のそれらの全部を展示、公開する。

■コレクション展 2024-2025
 6月1日(土)～2025年5月25日(日)

本郷新記念札幌彫刻美術館
 札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中です！ご覧ください
<https://sapporo-chokoku.jp>